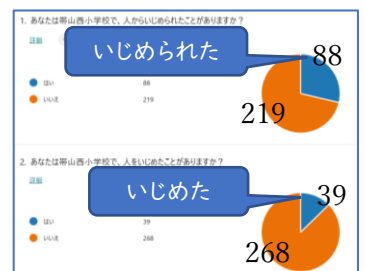




むらさき朝会 人権

本日6日(木)のむらさき朝会は、人権教育の視点に立った話をしました。今月は人権旬間で、子供たちの人間関係を見つめ直す機会にしたいと思ひ話をしました。まず、命はどこにあるかという振り返りをしました。

命は時間の中に存在し、「これから生きていく時間」と言えるのです。そんな大切な命だからこそ、人の物を盗ったり、人を傷つけたり、周りの人に心配を掛けたり、時間を守らなかったりしてはいけません。そして、そのかけがえのない時間を奪われてしまった人のお話「わたしの妹」という絵本を紹介しました。登場人物の妹は、小学4年生のときに、転校先の学校でいじめられ、部屋にとじこもったままになり、ひっそりと息を引き取ります。部屋には妹が書いた手紙が残されていました。その手紙には「わたしを いじめたひとたちは もうわたしを わすれてしまったのですね あそびたかったのに べんきょう したかったのに」と書かれていて、ここにいじめの構図が示されています。いじめをする側の人、覚えていなくて、いじめをされる側の人、覚えているのです。話の中で子供たちにはある質問をし、それにタブレットで答えてもらいました。①あなたは帯山西小学校で、人からいじめられたことがありますか ②あなたは帯山西小学校で、人をいじめたことがありますかという二つの問いです。このアンケートからもわかるように、圧倒的に「いじめられた」と回答した子供が多いのです。本来ならばいじめた側もいじめられて側も同数のはずです。しかし、「いじめられた」と思っている子供の方が多のです。



いつ ちか ことづか はや と
五つの誓い(腰塚 勇人)

- ▶ 口は人を励ます言葉や感謝の言葉を言うために使おう
- ▶ 耳は人の言葉を最後まで聴くために使おう
- ▶ 目は人のよいところを見るために使おう
- ▶ 手足は人を助けるために使おう
- ▶ 心は人の痛みがわかるために使おう

このように、人を傷つけることは、人の心を傷つけます。この心を傷つける「矢」は、「暴力の矢」「悪口の矢」「仲間外しの矢」「無視の矢」など他にもたくさんの矢があります。そして一度傷ついてしまった心は一人では癒えません。心の傷は一生残ります。話の中で、子供たちには、自分の両の手を重ねてもらいました。その手は温かく、その手を人のために生かそうと伝えました。「口は人を励ます言葉や感謝の言葉を言うために使おう 耳は人の言葉を最後まで聴くために使おう 目は人のよいところを見るために使おう 手足は人を助けるために使おう 心は人の痛みがわかるために使おう」これは、元教師で脊椎を損傷され、奇跡的に生還された腰塚 勇人さんのお話を引用(一部修正)したものです。

私は、十数年前に高校時代からの友達を失ったことがあります。友達自ら命を絶つ数日前に電話で互いに世間話をし、また一緒に飲もうと約束していました。しかし突然の訃報を聞き、駆けつけると、友達の手は冷たくなっていました。だからこそ命の大切さを子供たちには伝えたいし、命の尊さを子供たちに感じてもらえることが、友達への供養だと思っています。帯西の子供たちには、温かい手や足、目や耳、そして心で人のために行動できる子供たちに育ってくださることを願っています。

これからも無限の可能性をもつ子供たちと、生きていくことへの感謝の思いと、前向きに生きていこうという願いを込めて、グータッチをしながらかわっていきこうと思います。